

案件概要書

2023 年 6 月 27 日

1. 基本情報

- (1) 国名： エルサルバドル共和国（以下、「エルサルバドル」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名： 国内全域
- (3) 案件名： 人材育成奨学計画
(The Project for Human Resource Development Scholarship)
- (4) 計画の要約：
本計画は、エルサルバドル政府の中枢において活躍することが期待される若手行政官等が、本邦大学院において学位（修士・博士）を取得することを支援することにより、同国の優先開発課題の解決を図り、もって人的ネットワーク構築を通じた二国間関係の強化に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義
エルサルバドルは、国内の貧困率は依然として高く、貧困や治安悪化を要因とする米国への移民増加も深刻な社会問題となっている。
2019 年 6 月に就任したブケレ政権は、これら貧困・移民問題に取り組むべく、投資誘致・雇用創出及び汚職対策・ガバナンス強化を優先課題に位置づけた「クスカトラン計画」を発表した。同計画では、「公共セクターのプロフェッショナル化」が 4 本柱の一つとして掲げられており、本計画は「クスカトラン計画」を実施する上で不可欠となる行政機構の人材育成を中長期的に支援するとともに、二国間関係の強化に寄与するものである。
また、本計画を通じてエルサルバドルの行政官が自国の開発課題に取り組むための知見を我が国で習得し、特に学位取得の対象分野となる「交通及び沿岸開発」及び「経済活性化のための産業振興」に関する知見を高めることは、我が国が提唱する日・中南米連携性強化構想の下で進める「知恵の連携性強化」及び「経済の連結性強化」を実現するものであり、高い意義を有する。
- (2) 当該国における中核人材育成分野の現状・課題及び本計画の位置付け
エルサルバドルでは、政府機関・関係省庁の職員・組織制度・財政能力・体制が脆弱で、行政能力の向上と制度構築が最大の課題である。政府機関・関係省庁における中核人材の育成は同国における継続的な課題であり、「国家開発戦略（2016-2030）」でも行政組織における人材の能力強化は重要課題として指摘されていることから、本計画により中核となる行政官等の育成が期待されている。
対エルサルバドル国別開発協力方針（2022 年 4 月）では、「自立的かつ持続的な開発の促進」を基本方針とし、「経済の活性化と雇用拡大」、「持続的開発のための防災・環境保全」、「包摂的な開発の促進」の課題解決とその強化に係る人材育成への協力を継続すると定めており、本計画は我が国の協力方針と合致している。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

(ア) 実施内容

本計画は、中央政府の若手行政官等を対象に 1 期あたり最大 7 名（修士課程 6 名、博士課程 1 名）、計 4 期分の本邦大学院への留学に必要な経費を支援する。

(イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

- ・留学生の来日・留学支援（来日留学生の募集選考、来日準備、留学中のモニタリング、帰国準備、奨学金提供、大学への授業料等支払い等）。
- ・留学事業の付加価値向上支援（留学中の日本側関係者及び帰国生とのネットワーキング支援）

② 期待される開発効果

- ・本計画の実施により、若手行政官等が我が国において学位（最大で修士 24 名、博士 4 名）を取得し、各対象分野の課題解決に資する専門知識等を習得する。
- ・若手行政官等が帰国後、課題解決のための計画策定・政策立案に貢献し、所属組織等においてリーダーシップを発揮することで、当該組織が機能強化される。
- ・留学生受入による、二国間関係の強化（相互理解及び友好親善関係の構築）、受入大学等の国際競争力の強化、国際的な知的ネットワークの強化に資する。

③ 計画実施機関／実施体制：エルサルバドル大統領府、外務省等が想定されるが、詳細は協力準備調査にて確認する。

④ 他機関との連携・役割分担：特になし

⑤ 運営／維持管理体制：円滑な実施のために運営委員会を設置し、次年度の方針に係る協議への参加や留学生最終候補者の決定等を主に行う。

運営委員会の構成：エルサルバドル大統領府、外務省、在エルサルバドル日本国大使館、JICA エルサルバドル事務所等が想定されるが、詳細は協力準備調査にて確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリー分類：C
- ジェンダー分類：GI（P）（ジェンダー平等政策・制度支援案件）に該当し、協力準備調査にて、分野・課題別の女性行政官の育成ニーズなど、ジェンダー主流化 ニーズを確認する。
- エルサルバドルの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。同国の所得水準は相対的に高いが、経済成長率は中米で最も低く 2010 年から 2019 年の間は実質 GDP 成長率が平均 2.45%という低成長が続いていたが、コロナ禍により、ロックダウンが続いた 2020 年はマイナス 8.6%に落ち込んだ。2021 年は前年の反動もありプラス 10.3%となったが（世銀）依然として経済的な脆弱性を抱えていることから、持続的開発及び経済政策の担い手となる行政官の育成が必要である（「経済的脆弱性」）。また、本計画を通じた二国間関係の強化や日・中南米連結性強化構想への寄与も期待される（「外交的観点」）。以上を踏まえ、無償資金協力として本

計画の実施を支援する必要性は高い。

- 類似の留学生事業をスペイン、英国、米国等が実施している。

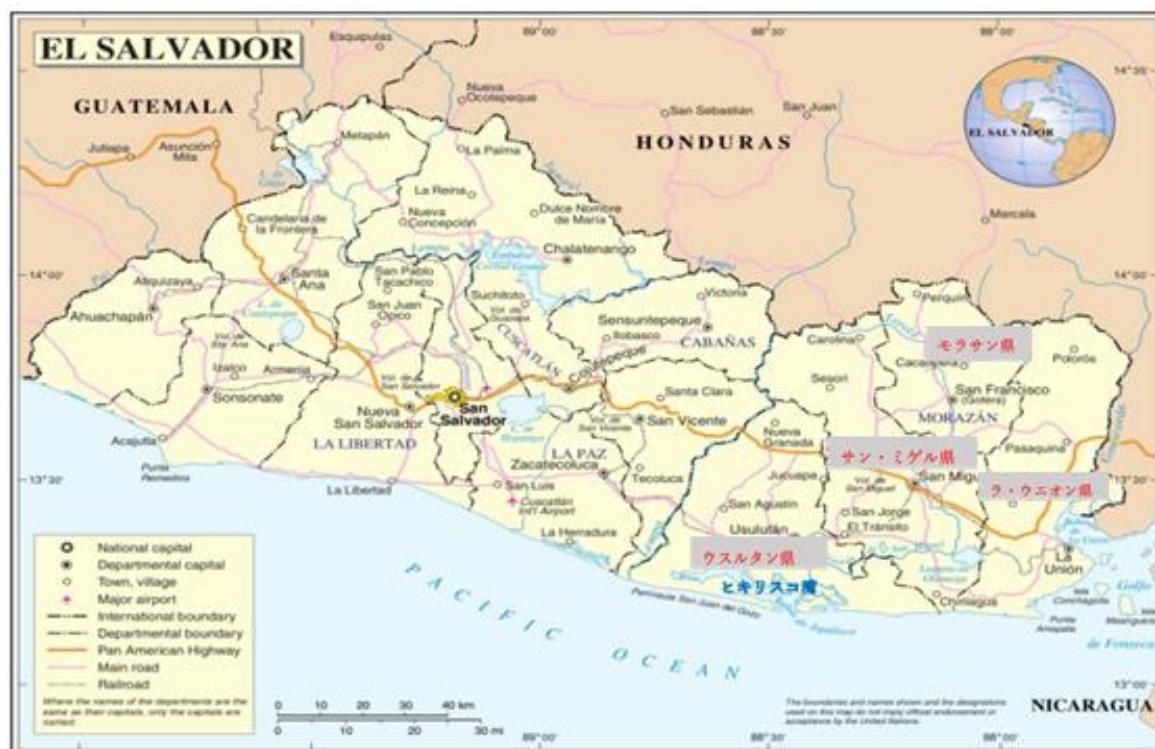
4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

過去の人材育成奨学計画において、二国間関係で重要となる省庁で主要政策を担う可能性が必ずしも高いとはいえない行政官等が選考されている例もあるため、対象分野や対象省庁の決定、候補者の選定にあたっては先方政府と十分な検討を行う。また、対象省庁を拡大するなど、帰国後の活躍が見込まれる優秀な留学生候補を選定できるよう工夫し、十分な募集期間の確保に努める。

以 上

[別添資料] 地図

地図 エルサルバドル全土



出典 : [United Nations](http://www.un.org)